

平成 30年 3月 29日

公益財団法人広島市文化財団理事長 様
 (東区民文化センター) 様

住 所 〒733-0011
 広島市西区横川町2丁目3-1 川崎ビル2F
 団体名 舞台芸術制作室 無色透明
 代表者職・氏名 代表 岩崎 きえ
 (担当者) 同上
 (住 所) 〒 同上
 (TEL) 090-7892-8925 (FAX)
 E-mail a.p.musyokutoumei@gmail.com

事業の終了について

下記のとおり、事業が終了したので報告します。

記

事業名	東区民文化センター舞台芸術促進事業 アートリップル事業 vol.7 「ここでしかできないことを」
日 時	2017年6月9日(金)～11日(日) スタジオ2 2017年8月19日(土)、20日(日) 中会議室、スタジオ2、大広間 2017年9月1日(火)～3日(水) スタジオ2 2017年10月27日(金)～29日(日) スタジオ2 2017年11月7日(火)、8日(水) スタジオ2 2018年2月11日(日)、12日(祝) スタジオ2
会 場	中会議室、スタジオ2、大広間
入場者・参加者	広島アクターズラボ「五色劇場」試演会【新平和】 動員数 236名 第七劇場ワークショップ 参加者 述べ人数 24名 第七劇場/新作国内ツアー2017【人形の家】 動員数 183名 烏丸ストロークロック広島単独公演【まほろばの密】 動員数 76名 劇団こふく劇場、劇団 HIT! STAGE 合同公演【境目】 動員数 107名 正直者の会/田中遊ほぼ一人舞台【戯式 VOL.8】 動員数 37名

実施内容	<p>■2017年6月9日(金)～11日(日) 広島アクターズラボ「五色劇場」試演会【新平和】 2016年6月より、無色透明が単体で企画した俳優養成のための長期育成講座「アクターズラボ」のメンバーによる試演会。講師として現在国内でも注目を集めつつある劇作家柳沼昭徳氏(第60回岸田國土戯曲賞最終候補ノミネート・平成28年度京都市芸術新人賞受賞)との長期クリエイションである。作品を「試演」と位置付けたのには訳があり、この作品は原爆・ヒロシマを題材とし、等身大の感性で歴史を継承していく試みに取り組み始めたものだからであり、そのために見分、研修、フィールドワークを重ね、3年かけて本公演に仕上げる為である。民間主催でこういった特化した取り組みは珍しく、演劇全国紙「シアターガイド」にも記事が取り上げられた。次年度以降も継続して取り組み、文化に還元できる作品作りを目指している。</p> <p>■2017年8月19日(土)、20日(日) 第七劇場ワークショップ 「カラダをキレイにワークショップ」「演出の解体新書～イプセンを読む～」 演劇の経験などがなくとも広く参加できる身体ワークショップと、一方で「演出のため」に特化したワークショップを行うことは、関心を集め、今年度で3回目を数える。今年度は「演劇をより楽しく見るために」という意図で普段観客の立場の方の参加や、県外からの参加者もみられた。</p> <p>■2017年9月1日(火)～3日(水) 第七劇場／新作国内ツアー2017【人形の家】広島公演 2010年度から行っている第七劇場の「雨月物語」「かもめ」「班女・邯鄲」「Alice in Wonderland」に続く、広島公演の5作品目となる。継続してきた成果が見られ、無色透明の顧客のほか「第七劇場のファン」というお客様が多く見受けられた。また、人形の家という人気のある文学作品ということもあって、遠方や海外の方の来場もあり、満席で幕を下ろすことができた。劇団との関係性が結果につながったことも喜ばしくまた、様々な世代にコミットしていく作品の提供に尽力できた。</p> <p>■10月27日(金)～29日(日) 烏丸ストロークロック広島単独公演【まほろばの密】 近年注目が集まる京都の劇団「烏丸ストロークロック」による、広島オリジナル公演。烏丸ストロークロックは「小作品を重ね本編製作を行う」という独特のスタイルをとっており、今作品は更に「地域を越えての創作」に取り組んだ。また、この作品が東日本大震災と向き合ったものであることも注目を集めた。初回は仙台で製作し、二本目がこの広島の作品、それらを踏まえて本編の「まほろばの景」の長編に至り、京都・東京公演を行った。特に東京公演の反響はすさまじく、ロコミが広がることで楽日には東京芸術劇場の小ホールが溢れる大好評で幕を下ろしたとのこと。その礎のひとつとなった広島公演に関しては劇団から「東区民文化センターでないといけない」と断言されるほど劇場と制作に感謝を述べていただき、この場での創作が開花に繋がった事を非常に喜ばしく思う。</p> <p>■2017年11月7日(火)、8日(水) 劇団こふく劇場、劇団 HIT! STAGE 合同公演【境目】 無色透明のスタッフでもあり、広島で活動する役者の坂田光平が、長期宮崎県に滞在し、客演としてクリエイションに参加した作品。熊本の震災をモチーフに描かれた作品で、この作品もまた地域を越えて製作された作品である。長崎・宮崎・広島のツアー公演の最終地が広島だった。平日にも関わらず客席は満員となり、こふく劇場ともまた、積年の関係性が結実したいい結果を導くことができた。</p> <p>■2018年2月11日(日)、12日(祝) 正直者の会/田中遊ぼぼ一人舞台【戯式 VOL.8】 昨年度、山小屋シアター(西区横川)で行った作品の再演ツアー。田中氏は2008年より、広島と縁があり、東区民文化センターでの上演は初となる。 緻密な舞台構成や、演技力に定評があり、無色透明とかかわりの深い地域(三重や松山)での公演でも好評を博した。しかし、連休の開催が裏目に出たのか集客に非常に苦戦し、申し訳ない結果を出してしまった。</p>
その他	<p>無色透明は長年県外の劇団の広島公演のオーガナイズをこの事業で行っており、その顧客ベースは「知り合いが出ているからという事由に起因せず、純粹に演劇を観に来る」というお客様で形成されており、それは誇るべき成果のひとつと自負しているが、近年SNS等の発達で各種様々なイベントの情報が容易に入手できることで、「普段あまり演劇をみるわけではない」層のお客様は、休日は他のイベントに赴くことが多くなり「演劇離れ」の傾向を強く感じた。打開策として、情宣方法の工夫やあえて休日を避け、平日公演のスタイルを引用していく等、試みたいと考える。</p>

*事業報告書を別途作成している場合は、添付してください。